

新規採用教員へのインタビュー



本田 桃子 ほんだ ももこ

津山市立北陵中学校 教諭
(令和5年度採用)

自己紹介

中学校保健体育科の教諭として今年度採用されました。2年団の副担任、1・2年生の保健体育の授業を担当しています。部活動はバドミントン部顧問を担当しています。

Q 教員を目指した理由を教えてください。

最初のきっかけは、小学校1年生のときに、岡山国体が開催された際に、自宅で選手の民泊の受け入れをしたことです。そこで出会った方は、国体選手であり、学校の先生でもありました。県の代表選手として子供に夢と希望を与えながら活躍されている姿を見て、「教員というのは、夢を与えられる素敵な仕事だな」と感じ、少しずつ「憧れ」を抱き始めました。そして、小学校4・6年生のときには、県の「夢アスリート発掘事業」に参加しました。その3年間で様々なスポーツを経験する機会をいただきました。もともとスポーツが好きなおももあり、「教員になりたい。それなら体育の先生かな。」という思いが明確にな

り、保健体育の教員になりたい、という目標をもつようになりました。

Q 仕事の様子について教えてください。

2年団の副担任として所属し、授業は2年生全5クラスと、1年生の2クラスを担当しています。細かい授業準備は一人でやっていますが、単元計画の作成や教具の準備等は、他の先生の助けもお借りしながら行っています。また、週に一度、初任者指導の先生にアドバイスをいただきます。ながら授業改善に努めています。空き時間や放課後は職員室で授業準備をすることが多いですが、本校には、年齢が近い先生も多く、相談しやすい雰囲気があるため、とても素敵な環境で働かせていただいています。

Q 教員としてのやりがいを感じるときはどんなときですか？

生徒との関わりでは、年齢が近いので、いろいろな悩みを話してくれることが多いです。ベテランの先生方のように的確な対応ができず、悔しく思うこともあります。その一方で話を

したことによって生徒の表情が明るくなったときには、よかったですと思います。内容に関わらず、生徒との日々の会話ややり取りがとても楽しく、生徒の変容や、成長が感じられることには大変やりがいを感じています。

授業でも、生徒が「今日の体育楽しかった」と言ってくれた時や、授業内での反応がよく、活動的な様子があると嬉しくなります。生徒と関わり合いながら、一緒に授業を創ることの大切さと充実感を感じています。

Q 授業で大切にしていることを教えてください。

単元全体の計画を立てる際に、「導入」と「まとめ」のつながりが十分に練り上げられていないと、うまく授業が展開できないと感じています。そのため、単元目標が具体化され、最終的に生徒にどうなっていてほしいかということをも明確化にできる様に心掛けています。また、教員からの一方的な指示だけでなく、生徒と一緒に目標を立てることや、生徒に目標に対する「振り返り」の時間を確保することも大切にしています。

さらに、同僚の先生方の授業を参観する中では、保健体育科における安全管理の重要性を再認識しています。楽しさだけではなく、

万全の準備と安全管理の徹底を強く心掛けています。

Q 今後の抱負を教えてください。

今は担任という立場ではないので、生徒との関わりにおいては、一歩踏み込めていない部分があると自覚しています。来年度以降、担任をもつ機会をいただけた際には、壁にぶつかれることもあると思いますが、1年間を通して、生徒とともに笑顔で過ごせるクラスづくりを目指していきたいと思っています。

Q 教員志望者や、教員になろうか迷っている人へメッセージをお願いします。

子供たちにとって人生における貴重な3年間に携わらせてもらっていると感じています。目先の成果というものは見えにくい仕事ですが、お互いに成長が感じられる素敵な仕事であり、子供たちから受ける刺激によって日々頑張ることができています。上手くいくことばかりではなく、苦しいときもあります。不安なことは、周りの先生に頼る・聞くということを大切にもらえたらと思います。子供と関わることはとてもやりがいがあり、楽しいと思えることも多くあるので、ぜひ一緒に頑張りたいです。